

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2021 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021 年度大学評価結果総評】(参考)

SSI は、とくに各種の専門競技を行っているアスリート学生を対象にスポーツ能力の向上を目指しながら将来に向けてより幅広いキャリアプランニングを可能とするなど、スポーツを科学的・文化的に捉えると同時に学部専門分野を追求し、知識の融合を図ることで高度なスポーツ文化の担い手としての人材の育成を教育目標とする SSI は、その設置から 15 年以上経過した。そうした時期に、インスティテュートのカリキュラム体系の全面的な見直し作業に取り組むことを当面の目標として設定したことはきわめて時宜に合ったものといえる。

その場合に、これまでの教育目標やそれに沿ったカリキュラムポリシーが十分に達成されているのか、不十分な場合にはどこに課題が潜んでいるのか、その課題を解決するためにはどのような点を再検討する必要があるのか、といった点について、専門委員会でも十分に協議し、本インスティテュート関係者の間で共有することが必要であろう。また、そうした作業の取り組みの一環として、学生のニーズや評価を把握する作業が不可欠であろう。本インスティテュート受講者の卒業後の追跡調査やカリキュラム見直しのための学生に対する固有のアンケート調査の実施も検討してもよいと思われる。なお、自己点検・評価シートにおいて「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020 年度目標が概ね達成されていた場合についても、次年度さらなる成果を出すためにも必要であると考えられる。

【2021 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

SSI は 2005 年 4 月よりスタートし、現在 15 学部中、10 学部（法学部、文学部、経済学部、社会学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、現代福祉学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部）が参画しており、2021 年度で 17 年が経過した。2021 年度は新型コロナウイルスの影響がある中、大学の方針を踏まえた上で、ILAC の授業方針と同調し、可能な限り多くの授業を対面形式で実施するように執行部として決定した。その理由として、SSI 生はスポーツ活動（部活動）と学業の両立をしなければならず、そのために生活のリズムを大事にしている。対面授業を行うことで、生活習慣が整い心身ともにスポーツと学業に取り組むことができると考えている。

2021 年度に掲げた年度目標は、概ね達成できた。特にアクティブラーニングについては、積極的に行った授業もあった。SSI 生の特徴として、同一部内でのコミュニティが盛んである一方、他の学生とのつながりが薄い傾向が見受けられる。アクティブラーニングを導入することで、積極的に授業に取り組みかつ友人関係が広がることにつながるので、さらに導入を進めていくべき検討を進める。

重点目標であった、「カリキュラム改訂に向けての問題点把握」に関しても、学生アンケートなどをもとに運営委員会で意見徴収を行い、カリキュラム委員会で検討することができた。今後に関しては、ご指摘の内容を十分検討して、学生のニーズを把握するために、SSI 固有のアンケートを実施し、新カリキュラムに反映していきたい。

また 2021 年度は、大学の方針により SSI でも授業科目のスリム化を検討してきた。SSI では 2024 年度から実施する新カリキュラムと同時にスリム化を進める方針となり、その一環として、いくつかの授業をオンラインとして実施し、学生のニーズをふまえてオンライン授業に関して検討することになった。SSI では基本的に対面授業を軸に行う方針であるため、オンライン授業の導入には、さまざまな視点から検討をすすめたい。

【2021 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI) は、スポーツ活動（部活動）と学業の両立を目指しており、コロナ禍においても大学の方針を踏まえたうえで対面授業を積極的に実施することで、学生の生活習慣を整え、心身の健全な育成とともにインスティテュートとしての使命を果たすよう尽力してきた点は特筆に値する。

2021 年度に課題となっていた同一部活内に限定される傾向のある交友関係については、アクティブラーニングへの取り組みによって改善がみられたため、更に導入を進めるべく検討を行うとのことであり、さらなる成果に期待したい。

また、「カリキュラム改定にむけての問題点把握」に関しても、学生アンケートを実施し、その結果をカリキュラム委員会で検討しており、進展がみられる。大学の方針による授業科目スリム化調整のなか、学生のニーズに応じてオンライン授業を効果的に活用する工夫については、高く評価できる。

現状と改善点の把握が着実に進むなか、今後は SSI 固有のアンケートも検討されており、新カリキュラムにおいて学生と社会のニーズがより反映された内容となることが期待できる。

卒業生の追跡調査については、自己点検・評価シートに言及がなかったが、今後実施されることに期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

II 自己点検・評価

1 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

1.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度1.1①に対応

はい
【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。 ・2021年度の質保証委員会は、執行部2名とSSI運営委員2名により実施した。 ・第1回質保証委員会（2021年度自己点検・評価について）2021年7月29日実施 ・第2回質保証委員会（2021年度末自己点検報告について）2022年3月9日実施

1.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。
SSIにおけるCOVID-19への対応については、2020年度よりILACの基本方針に準じて対応しており、2021年度も引き続きILACと同調して対応・対策の措置を講じた。その中で、SSIにおける質保証委員会の役割としては、執行部および質保証委員と連絡を密に取り、担当授業を通じてできるだけ多くの情報を入手することを申し合わせ、その情報を運営委員会で共有した。また対面とオンラインが入り混じる授業形式の中で実施された授業の内容やその効果などについて、アンケート結果や成績をもとに検討した。上記の内容を、質保証委員会において遂行した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・第1回質保証委員会（2021年度春学期授業改善アンケート結果）2021年7月29日実施 ・第2回質保証委員会（2021年度秋学期授業改善アンケート結果）2022年3月9日実施 ・第6回SSI運営委員会

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・質保証の観点より、毎年SSIでは独自の卒業生アンケートを取り、SSI授業に対する満足度、改善点等を把握するようにしている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・SSIによる独自のアンケートにおいては、一定程度の満足度を把握できているが、現状把握に留まり、有効に活用できていない部分もある。今後のカリキュラム変更を見据え、在学生にもアンケートを追加し、カリキュラム変更の基礎資料にしたいと考えている。

【内部質保証の評価】

SSIでは、授業改善の積極的な取り組みとして、セメスターごとの授業改善アンケート結果を年2回の質保証委員会で検討している点と、COVID-19への対応措置として実施されたオンライン授業と対面授業の授業内容について情報収集をし、その効果について検討した点が評価できる。 今後は、質保証委員会で検討した内容をどのように各授業に還元できるかについて、引き続き検討することが望まれる。 独自のアンケート実施は評価できるが、実施回数が増えるとアンケートへの慣れや回答疲れも危惧される。したがっ
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

て、アンケート内容や実施のタイミング、方法、目的などその必要性を明確にするとともに、アンケート結果をどのように活かすかについてのさらなる検討が必要であろう。

2 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

2.1①学生 の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021

年度 1.1①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

現行の SSI カリキュラムは、2015 年度に SSI カリキュラムポリシーに則り改訂を行い、運用してきた。その特徴として、限られた総コマ数のなかで、幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、教育内容を整理・集約することで戦略的に総コマ数のゆとりを確保したことが挙げられる。2016 年度第 4 回運営委員会、2017 年度第 1 回運営委員会において、SSI 生が所属する学部の主権科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう SSI 参加 10 学部 に依頼した。本件については、2021 年度も引き続き参加学部に対して、カリキュラムポリシーに沿った科目の拠出を依頼している。

SSI 生の特殊性を考慮した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」については、2017 年度に具体的な内容や評価方法が議論され、2018 年度から開講した。その結果、全ての競技に取り組む SSI 生が履修できるようになり、科目の平等性が確保された。

コロナ禍において、対面授業を重視する SSI 方針がある中で、一部の授業を積極的にオンラインにした結果、受講者数が増え学習効果があがった報告を受けている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等

- ・ SSI 履修要項・講義概要（シラバス）
- ・ 2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録
- ・ 2017 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録
- ・ 2017 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録
- ・ 2020 年度末 SSI 運営委員会議事録

2.1②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021 年度 1.1②に対応

S : さらに改善することができた

※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

SSI 生は各学部 に本籍を置くため、各学部で行われている初年時教育（基礎演習など）に参加している。SSI においては、基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」などが初年次教育の役割を果たしている。また 2018 年度より開講されている「オリンピック・パラリンピックを考える」については、高大接続の推進を目指して 3 つの付属高の生徒にも公開された。また入学センターと連携して、高校生・高校教員向けに、SSI 科目である「コンディショニング科学」の内容をオンラインで実施し、高大接続へ配慮した。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・ 高校生・高校教員向けに、SSI 科目である「コンディショニング科学」をオンラインで実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 2021 年 SSI 履修要項・講義概要（Web シラバス）
- ・ SSI カリキュラムマップ
- ・ SSI カリキュラムポリシー
- ・ 入学センターホームページ

2.1③学生 の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021 年

度 1.1③に対応

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

S : さらに改善することができた
※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。
キャリア教育に関しては、ILAC 科目 0 群に配備され、全学共通の公開科目となっている「キャリア教育プログラム」を利用しているほか、SSI 生が所属する各学部において実施されているキャリア教育も受けている。また SSI 独自に展開しているキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」、「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。これらは選択科目であるが、SSI 生の多くが受講していることが確認されている。また大学キャリアセンターと連携して、「就職ガイダンス」および「エントリーシートの書き方」など、オンラインで実施した。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・大学キャリアセンターと連携して、「就職ガイダンス」および「エントリーシートの書き方」をオンラインで実施した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年 SSI 履修要項・講義概要 (Web シラバス) ・SSI カリキュラムマップ ・SSI カリキュラムポリシー ・2021 年度秋学期 SSI 受講者一覧 ・大学キャリアセンターホームページ

2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

2.2①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021 年度 1.2①に対応

S : さらに改善することができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。
・例年、大学入学前の 3 月末に、SSI 新入生を対象に SSI ガイダンスを行っている。 ・SSI 生が所属する学部によって、年度当初に行われる学部・学科ガイダンスが終了後、履修方法などに関する SSI 生を対象とした個別のガイダンスを行っている。 ・クラブによっては、上記に加え、部長（専任教員）が履修および学習に関わる指導を行っている旨の報告を受けている。 ・2022 年度については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、2021 年度同様に対面でのガイダンスを実施せず、大学が提供する「学習支援システム」を通じてオンライン（オンデマンド形式）でガイダンスを行った。 ・昨年度のガイダンス資料（動画）に加え、より細かな案内を加えてガイダンスを行った。 ・パソコンが不慣れなどの理由で履修手続きが困難な学生に対しては、所属学部事務窓口および SSI 事務相談窓口で履修サポートを行った。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・学生がよりスムーズに履修登録ができるよう、ガイダンス資料（動画）を追加し、ポイントを示して実施した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2022 年度 SSI 履修の手引 (https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/) ・SSI ガイダンス動画 ・SSI 生共通履修ガイダンス ・SSI 履修のポイント ・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

2.2②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021 年度 1.2②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。
新年度直前の 3 月末に、保健体育センター主催のフレッシュマンオリエンテーション（zoom によるリアルタイム形式）と共催して、SSI 執行部（運営委員長と副委員長の 2 名）が登壇し、大学における授業の必要性、学業と体育会活動の両立や履修のポイントなど、修学上の注意事項などの学習指導を行った。また年間を通じて、大学ホームページ（SSI 関連

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

ページ) を介し、動画ファイルと音声ファイル、履修の手引きなどを用いて修学上の指導を行っている。加えて、履修困難な学生に対して、SSI 事務相談窓口を設置し、履修支援を行っている。

SSI 生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ない場合がある。その際には、大学の公式書類である「競技参加による欠席願い」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンスおよび各学部学科のオリエンテーションやガイダンスにおいて指導している。

授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、「学習支援システム」を利用した資料配布や課題の設定などを行っている。また SSI 生が「学習支援システム」を有効に活用できるようにするため、必要に応じて SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。

成績不振者に対する指導は、運営委員会および FD ミーティングで情報を共有して対応している。対象学生の所属学部においても、学部独自のルールに従って、面談や学習指導を行っている。今後はさらに関係各所と情報共有を図り、より一層学部と協力して学習のサポートができるよう検討する。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2022 年度 SSI 履修の手引 (<https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/>)
- ・SSI ガイダンス動画
- ・SSI 生共通履修ガイダンス
- ・SSI 履修のポイント
- ・各授業の学習支援システム
- ・保健体育センターフレッシュマンオリエンテーション開催通知及び資料

2.2③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。2021 年度 1.2③に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

全ての科目で授業時間外に行うべき学習活動（準備学習など）が指示されており、その内容はシラバスを通じて周知されている。授業に使用する資料やレジュメなどを「学習支援システム」から事前に配布し、準備学習を行うよう促している。また昨年度から課題に対するフィードバックを授業内に実施するよう依頼し、その方法は各授業のシラバスにも明記してある。全体的には、学習（予習・復習）を行うことに対して、科目担当教員が適宜、指示をしている。

学生が「学習支援システム」を活用できるよう、教員各々が担当する授業の中で「学習支援システム」の使い方を解説している。本システムを活用できていない学生が見られた場合は、SSI 事務相談窓口と執行部で連携を図り、迅速に問題解決を図る。

また授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対し、「学習支援システム」を通じて、動画を提供する授業が行われている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業の学習支援システム
- ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）

2.2④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021 年度 1.2④に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。
- ・テーマを与えて、グループ・ディスカッションやディベート、グループワークなどのアクティブラーニングが実践されている授業もある。
- ・Zoom を用いたリアルタイムの授業では、ブレイクアウトルーム機能を活用している授業がある。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

・「学習支援システム」などを利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・各授業の学習支援システム
・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）

2. 2⑤それぞれの授業形態（講義、実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021 年度 1. 2⑤に対応

S : さらに改善することができた
※どのような配慮が行われているかを記入。
SSI は学生数に対して開講できる総コマ数が少ないため、受講者が教室の定員を超える場合がある。現在は SSI 参加学部（10 学部）から SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の提供を受けているため、若干のゆとりが確認できている。 実習を伴う一部の科目（トレーニング理論と実践）では、授業の質及び収容人数の観点から、同一科目を複数開講している。 10 名以下の過小人数受講者の授業もいくつか見られるため、全体的なバランスを考慮して受講者数の極端な偏りについて検討した結果、2021 年度は予め過小人数受講者の授業に対して、オンライン形式を科目担当教員に依頼し実施した結果、5 月時点で全ての授業が改善された。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・対面授業を基本方針としている SSI であるが、1 時限目に開講しているいくつかの科目でオンライン授業にした結果、早朝練習がある学生や 1 時限の履修を控える学生が受講しやすくなったと推察され、履修者の改善が認められた。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）
・2021 年度 SSI 履修状況一覧

2. 2⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018 年度 2. 2⑥に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。
・シラバスは適正に作成され、作成に関する情報は SSI 執行部と事務で把握しており、執筆者に提供している。 ・SSI 質保証委員が分担し、全てのシラバスのチェックを行った上で、SSI 執行部が縦覧してる。特に新設科目や担当者の交替があった科目や前年度からの変更点などは重点的にチェックしている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会
・2021 年度第 2 回質保証委員会

2. 2⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018 年度 2. 2⑦に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。
・個々の授業の運営は原則として科目担当教員に委ねられているが、著しくシラバスから逸脱した授業などに対する学生からの意見を拾うために、学習改善アンケートの結果を執行部がチェックしている。 ・定期的に SSI 主催科目担当教員による FD ミーティングを開催している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 3 回 SSI 運営委員会
・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

2.2⑧通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021年度

1.2⑥に対応

※取り組みの概要を記入。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、SSIの全ての授業がオンラインへの対応を余儀なくされたが、2021年度は、大学方針がレベル1となったため、SSIとして基本方針を対面形式に設定し、感染予防に十分配慮して授業を行なった。その一方で、急な感染拡大に対応できるよう、学生と教員が授業内において、積極的にコミュニケーションをはかり、対面形式からオンライン形式に切り替わった場合への準備をした。

工夫の一つとして、SSI執行部から学習支援システムの継続的な活用を依頼した。一例として「お知らせ」機能を通じて授業情報の連絡（対面授業かオンライン授業か）、「教材」機能を通じて授業資料の事前配布、「課題」機能を通じて課題提出などであった。

対面形式では、グループワークをする際において、マスクの徹底や学生同士の間隔、グループ人数の制限、グループ間の距離など配慮して実施した。また大学の規定によって、対面授業に参加できない学生には、ハイフレックス形式で参加できるよう配慮した。

オンライン形式は、リアルタイム型やオンデマンド型、資料配信型とし、個々の授業については担当教員の裁量に応じて実施した。オンライン授業では、自宅で聴講する学生が多く認められたため、通信環境に配慮して授業全体の構成（オンライン配信時間と課題取り組み時間）を工夫した。リアルタイム型の授業では、毎回の中で学業面や生活面、体調面について学生より聴取し、心身の健康に配慮した授業もあった。

成績評価に関しては、シラバスの「成績評価」に沿って、授業実施後に課題（リアクションペーパー、小テスト、ショートレポートなど）を課した授業が多く認められた。また、ハイフレックス形式で、オンラインで参加した学生が不利にならないよう、オフィスアワーを積極的に活用しサポートした授業もあった。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度始めに配布したSSI授業に関する資料（SSI事務より各教員に配布）
- ・2021年度第2回FDミーティング（第6回SSI運営委員会終了後実施）

2.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

2.3①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・SSI運営委員会において、全学およびSSIのGPCA平均集計表を配布している。
- ・成績評価は基本的に担当教員の裁量事項であるが、SからD・Eまでの評価割合は執行部として把握している。特にSの割合については、大学の基準を周知している。
- ・SSI運営委員会やFDミーティングにおいて、成績評価法に関する意見交換を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GPCA平均集計表（全学およびSSI）
- ・2021年度第1回FDミーティング（第3回SSI運営委員会終了後実施）
- ・2021年度第2回FDミーティング（第6回SSI運営委員会終了後実施）

2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

2.4①成績分布、進級などの状況を把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・データの把握主体：SSI執行部およびSSI運営委員

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

・把握方法：学務部によって集計された全学および SSI の GPCA などに関するデータをもとに、SSI 運営委員会や FD ミーティングにおいて共有し把握している。 ・データの種類：成績上位者の分布や進級状況など
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・GPCA 平均集計表（全学および SSI） ・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

2. 4②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021 年度 1. 4②

に対応

S：さらに改善することができた
※取り組みの概要を記入。
SSI 生は各学部には所属していると同時に、各自専門競技に特化した活動を行っている。それらの特徴を踏まえた学習方法の検討を行った結果、2018 年度より「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、その受講者数を SSI の特性に応じた学習成果測定の一つの指標としている。 また「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」において、受講生が事前に提出する申請書や事後に提出する報告書を参考に、学生自らが自身の成長を把握、評価できるような仕組みを導入している。 2021 年度より、申請書及び報告書の提出を Google フォームに変更したため、個人の記述内容と受講者全員の記述内容が同時に確認できるようになった。また、報告書の各項目に字数制限（何文字以上）を設けることで、学習成果の測定がより具体的になった。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・申請書及び報告書の提出を Google フォームに変更し、報告書の各項目に字数制限を設けた（何文字以上）。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2017 年度第 4 回運営委員会議事録 ・2021 年度第 1 回運営委員会

2. 4③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021 年度 1. 4③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや卒業生アンケートの活用状況等。
卒業を間近に控えた 4 年生を対象に「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートでは、SSI 主催科目に関するヒアリングを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。これらの結果は、執行部で集約・把握し、SSI 運営委員会において委員にフィードバックを行い、意見交換を行っている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果

2. 5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2. 5①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021 年度 1. 5①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
教育課程およびその内容、方法の適切性については、執行部を中心とした、主にカリキュラム委員によって定期的に点検・評価を行っている。同時に質保証委員によっても点検・評価を行っている。その他、SSI 主催科目担当教員によって、

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

定期的に FD ミーティングを行っており、カリキュラム編成や授業実施方法の改善や向上について意見交換を行っている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 2 回 FD ミーティング（第 6 回 SSI 運営委員会終了後実施）

2.5②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021 年度 1.5②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【利用方法】※箇条書きで記入。
・授業改善アンケートの結果の利用は、主に担当教員に委ねられているものの、SSI 執行部がアンケート結果をチェックし、問題点の洗い出しを行っている。
・分析結果は、SSI 運営委員会で報告し共有している。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 1 回 SSI 運営委員会
・2021 年度第 6 回 SSI 運営委員会

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・SSI 主催科目については、授業を 1 時限から 3 時限に配置することで、体育会活動と修学が両立できるよう工夫している。 ・主催科目のうち、必要な修得することで、コーチングアシスタント資格を取得できるカリキュラム編成となっている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・市ヶ谷、多摩で授業開講コマ数にやや違いが生じていること。 ・オンデマンド授業等の活用により、SSI に所属する学生には、キャンパス間の開講コマ数に差異がでないよう改善していく必要がある。

【教育課程・学習成果の評価】

<①教育課程・教育内容に関すること (2.1) >

SI に参加する全ての学部との調整により、SSI 生が履修できる科目の幅を広げることができたことは、教育内容の充実という点において大いに評価できる。同様に「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」が全ての競技に取り組む SSI 生に開かれ、科目の平等性が確保されていること、また、一部の授業ではオンラインの導入により、遠征先や合宿先での受講が可能となり、受講数も増え、学習機会の確保という点で効果が見られたことは評価できる。

さらに 2021 年度には、オンラインを活用することによって、入学センターとの連携により、高校生・高校教員向けに SSI 科目「コンディショニング科学」を実施したり、キャリアセンターとの連携により就職支援に関するガイダンスや講座を開催し、高大接続とキャリア支援が積極的に行われている点は評価できる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<②教育方法に関すること (2.2) >

SSI では、入学前の 3 月に新入生を対象にガイダンスを行うとともに、年度当初の所属学部・学科のガイダンス終了後には履修方法に関する個別のガイダンスを実施したり、パソコンが不慣れな学生にむけての窓口対応を併用するなど、細やかな指導は特筆に値する。

対面授業を基本方針とする一方で、学習支援システムやリアルタイム型オンライン授業などを有効活用し、10 名以下の過小人数受講科目の改善もみられたことは高く評価できる。また、授業の補習・復習となる動画配信によって学習面のサポートも充実している点は特筆に値するきめ細かな受講生への配慮である。

シラバスのチェックに関しても、新設科目や担当者交替科目の場合、また、前年度からの変更点などを、SSI 質保証委員、SSI 執行部が重点的に確認している点でも評価できる。

<③学習成果・教育改善に関すること (2.3～2.5) >

SSI では、成績評価と単位認定の適正については、運営委員会および FD 活動ミーティングにおいて情報共有され、適切に把握されている。

Google フォームを活用した「スポーツ実習 I・II」の申請書および報告書の提出は、学生ポートフォリオの一部であり、学習成果を可視化する取り組みとして高く評価できる。

問題として指摘されているキャンパス間における開講コマ数の差異については、解決策が例示されているため、早期改善が見込まれる。

3 教員・教員組織**(1) 点検・評価項目における現状**

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018 年度 3.1①に対応

【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定に則って、運営委員会を構成し、委員長・副委員長からなる執行部を構成している。
- ・2018 年度より、SSI 運営委員会内に質保証委員会を設置し、質保証委員を選出している。
- シラバスのチェック、教育課程・学習成果の検証と改善・向上について検討する。
- 今後、定着が見込まれるオンライン授業と対面授業に関して、学習成果などの検討を行う。
- ・2024 年度に施行される新カリキュラムに向けて、2019 年度にカリキュラム委員会を設置し、カリキュラム委員を選出している。
- カリキュラム全般に関する基本制度を検討する。
- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定については、現状の実態にそぐわない点があったため、2018 年度から検討を行い、2020 年度に改正を行った。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会の構成については、「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定」に明示している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定
- ・2018 年度第 1 回運営委員会議事録
- ・2020 年度第 1 回運営委員会議事録

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018 年度 3.2①に対応

はい

※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

SSI カリキュラムポリシーに沿って、基礎科目、専門科目を配備しており、それに沿った教員組織が組まれている。SSI カリキュラムポリシーでは、異なる学部にも所属する教員が協同することにより、学部相互の特色を併せもった教育課程を編成することを標榜している。現在、全学におけるスポーツ（体育）に関わる専任教員 19 名（2022 年 4 月時点のデータによる）が在籍しているが、そのうち SSI 科目を担当している教員は 10 名となっている。SSI 設置当初の理念として、なるべく専任教員でまかなえるよう努力することが申し合わせている。今後、スポーツ（体育）専任教員の SSI 科目担当を促すことは更に必要であろう。そのためには、学内関連部局であるスポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携を強化していく必要があると考える。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定 ・SSI カリキュラムポリシー ・2004 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.3①組織内の F D 活動は適切に行なわれていますか。2021 年度 2.1①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【F D 活動を行うための体制】※箇条書きで記入。
- SSI 執行部とカリキュラム委員および質保証委員によって、FD 活動に関する検討を定期的に行っている。 - 質保証委員会を設置し、執行部と連携を取りつつ、教育開発・学習支援センターの取り組みも踏まえた活動を進める体制を整えている。 - 全ての SSI 主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。 2021 年度は、昨年度に続いて、オンラインで FD ミーティングを 2 回開催した。感染予防対策を講じてのコロナ禍における対面授業について、学生の様子や授業内容（形式を含む）などについて、意見交換を行なった。
【2021 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。
第 1 回 FD ミーティング（2021 年 7 月 29 日にオンラインで開催） - テーマ：コロナ禍における対面授業の進め方について - 参加人数：6 名 第 2 回 FD ミーティング（2022 年 3 月 9 日にオンラインで開催） - テーマ：ポストコロナにおける SSI 授業のあり方について（対面授業とオンライン授業のバランスなど） - 参加人数：5 名
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021 年度第 1 回 FD 委員会議事録（2021 年 7 月 29 日開催） ・2021 年度第 2 回 FD 委員会議事録（2022 年 3 月 9 日開催）

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
スポーツ関連の専任教員は、多岐にわたる専門分野（トレーニング科学、心理学、スポーツビジネス、コーチ学、生理学、アスレティックトレーニング学、西洋医学、東洋医学など）を携えて、それぞれの学部にも所属している。また SSI 主催科目は、カリキュラムポリシーに則り各々の専門領域を活かして配備されている。上記以外の領域については、兼任講師によってまかなわれているため、SSI 生はスポーツに関わる知識を総合的かつ包括的に修得することができ、その結果それぞれの競技に即応用可能である。更に卒業後の進路においても貢献できる科目設定となっていることが特徴である。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
- SSI 参加学部（文系学部）の専任教員が、SSI 主催授業を担当できるような体制としたい。 - スポーツ健康学部との科目乗り入れについても引き続き検討していきたい。 - 上記を達成できるように、各学部執行部に継続的に依頼をしていく。

【教員・教員組織の評価】

SSI は、当該運営委員会規定に則り執行部が設けられ、役割分担と責任の所在は明確である。教員組織については、カリキュラムポリシーに沿った適切な組織となっているものの、2024 年度から実施される新カリキュラムにむけて、学内関連部局であるスポーツ研究センターやスポーツ健康学部との更なる連携強化が強く望まれる。

FD 活動については、FD ミーティングへの参加者が少ない点を改善するとよいだろう。SSI にかかわる教員が複数学部に跨るため日程調整が困難であることは理解できるものの、メールでの意見聴取やミーティング内容の共有等によって改善することが望まれる。

SSI 参加学部（文系学部）に所属する専任教員による SSI 主催授業の担当といった体制づくりや、スポーツ健康学部との科目乗り入れについても引き続き検討されることを期待したい。

4 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

4.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を把握していますか。2018 年度 4.1①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法・データの種類の種類等】※箇条書きで記入。 SSI は学部横断的な組織であるため、卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況などに関しては、所属学部の教授会決定に従っている。それらの状況（情報）は、各学部から選出されている SSI 運営委員によって把握しており、学部ごとに対応をしている。 また全体の状況に関しては、SSI 執行部が把握しており、SSI 運営委員会で報告している。 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 - 各学部教授会議事録 - 年度末開催 SSI 運営委員会議事録

4.1②学生の修学支援をどのように行っていますか。2018 年度 4.1②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 基本的には、SSI 生が所属している学部・学科によって行われているため、SSI として組織的な対応はしていないが、授業を通じて担当教員が個々に修学支援を行っている。 SSI としては、学部ごとに選出された SSI 運営委員が中心となって、その学部に所属している SSI 生の修学支援を行っていくよう促していく。 また、SSI 独自に集計（抽出）したアンケート結果を、学部・学科と共有して、修学支援の参考となるよう情報提供していく。 学生アスリートのキャリア支援については、大学キャリアセンター内に、体育会担当アドバイザーを置いて対応している。 今後は、SSI 独自のアカデミックアドバイザーについて検討を進めていく。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・大学キャリアセンターホームページ

4.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018 年度 4.1③に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。
SSI 生が所属する学部・学科において対応しているため、SSI として組織的に対応していない。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

4.1④外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018 年度 4.1④に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。
SSI 生が所属する学部・学科において対応しているため、SSI として組織的に対応していない。 なお、SSI では外国人留学生の受け入れを認めていない。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・SSI 入学規定

4.1⑤学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018 年度 4.1⑤に対応

S : さらに改善することができた
※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
SSI 生が所属する学部・学科において対応しているため、SSI として組織的に対応していないが、部活動ごとに指導者（監督、コーチなど）が対応している。なお各部活動の指導者は、毎年保健体育センター長名で任命しており、正式に大学に登録されている。 また、大学には各キャンパスに学生相談室が設置されており、必要に応じて利用するように情報提供している。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・保健体育センター主催の部長監督会議で、各部活動指導者へ学生相談室の案内を行った。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・学生相談室ホームページ ・2021 年度第 1 回部長・監督会議議事録

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
SSI は学部横断的な組織であり、全ての SSI 生は入学時に決定した学部にも所属している。そのため、4.1. ①～4.1. ⑤に関

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

しては、所属学部の方針に沿って対応している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
今まで、SSI 生が所属している学部にて任せてきたが、今後 SSI として組織的にできることを検討したい。 ・アカデミックアドバイザーの導入 ・学生生活の相談など

【学生支援の評価】

SSI では、卒業・卒業保留・留年および休・退学者の状況は運営委員会で報告されている。

修学支援について組織的取り組みは行われていないが、各学部で選出された SSI 運営委員が中心となって、所属学部生に対して支援を行うよう促されている。また、キャリア支援についても大学キャリアセンターと連携を図り、体育会担当アドバイザーを設置して対応している点でも評価できる。

今後は、SSI 独自のアカデミックアドバイザー制度や学生生活相談体制が検討されるとのことで、よりきめ細かな学生支援に期待したい。

5 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

5.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 5.1①に

対応

S : さらに改善することができた

※取り組み概要を記入。

・関連部局（HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会社会人学び直し検討チームなど）と連携することで、履修証明プログラムを実施している。

・2021 年度は、入学センターと連携して、スポーツ関連学部を志願する高校生への出前授業を実施した。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

・入学センターからの依頼により、スポーツ関連学部を志願する高校生への出前授業をオンラインにより実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・SSI ホームページ

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
SSI 生はそれぞれのスポーツ活動において、かなり高い競技成績を維持している。また現在は 38 の体育会が存在する。これらの資源から得られた情報やデータなどを広く社会に還元できるように努めている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

・特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

SSI は、履修証明プログラムに協力している。2021 年度の実績が 0 というのは残念であるが、コロナ禍ゆえ仕方がないだろう。引き続き、オンライン授業の導入や魅力ある内容を検討されとのことなので期待したい。

社会貢献として、スポーツ関連学部を志願する高校生へのオンライン授業は評価できる。また、それぞれのスポーツ活動において、高い競技成績を維持している SSI 生の活躍を知らしめること自体が社会貢献である。38 の体育会から得られた情報やデータ等を社会に還元するよう、今後とも努めることが望まれる。

今後、SSI 教員の多岐にわたる専門分野を活かしたセミナーやシンポジウムなどのスポーツ文化イベントを開催することによって、履修証明プログラムの社会的認知度や関心が高まることに期待したい。

6 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

6.1①運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018 年度 6.1①に対応

はい

※概要を記入。

「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定」に則って、委員長、副委員長をはじめとする各委員が配備され、インスティテュートを適切に運営している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・特になし

【大学運営・財務の評価】

「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規定」に則って委員長、副委員長をはじめとする各委員が配備され、適切な運営が行われている。

Ⅲ 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	新型コロナウイルス（変異ウイルスを含む）によって、オンラインによる授業形態が急速に導入されたため、これまで年度に 1 回開催していた質保証委員会を年 2 回に増やし、オンライン授業の質保証に関しても検証する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

	達成指標	春・秋学期中に1回、年度末にも1回、質保証委員会を開催し、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	20年度につづき、質保証委員を2名選出し、運営委員会の開催に合わせて、適宜質保証委員会およびカリキュラム委員会を開催した。審議事項としては、新型コロナによる授業形態と学習効果の検証を中心に、学生アンケートの結果から、現状把握とカリキュラム再編への検討を行った。また、SSI主催科目のシラバスについて、質保証委員が第三者的立場より、適切な記載がなされているか確認を行った。
		改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。	
	年度目標	1. 20年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として拠出してもらえよう、各学部に働きかける。 2. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、その礎となる問題点・変更点などを抽出する。	
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として拠出してもらえよう、運営委員会を通じて各学部のSSI運営委員に依頼する。 2. SSI主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴取を行い、カリキュラム委員会で検討した後、運営委員会でも共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	運営委員会において、各学部から選出されている委員に対して、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として提供してもらえよう依頼した結果、20年度と同程度の科目や科目数の提供を受けることができた。 新カリキュラムに向けての検討については、年末の運営委員会終了後にカリキュラム委員会を開催し、24年度改定を目指す新カリキュラムについて、大まかな方向性を検討した。しかし、その結果は、まだ時期早尚であったため、運営委員会での報告までには至らなかった。
		改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	1. アクティブラーニング型の授業を増やし、その効果を検証する。 2. 大学が許可する対面授業においてSSI独自の科目を選定し、実施する。	
	達成指標	1. 年度末に開催するSSI運営委員会および質保証委員会において、アクティブラーニングの実施状況を把握し、その効果について協議する。 2. SSI基礎科目（必修7科目）を独自に対面授業の対象とし、実施する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	アクティブラーニングについては、比較的受講者の少ない授業において実施された報告を受けている。対面形式で開講していた科目であったが、グループワークを行い、お互いの意見を共有することで、多くの効果を得たことがアンケートなどで確認されている。今後の課題としては、受講生が多い授業やオンラインでの授業でアクティブラーニングが実施可能であるか、検討していきたい。 またSSIが主催する科目に関して、対面授業を基本に各担当講師に依頼した結果、感染対策に留意し、必修7科目を含む多くの授業が対面形式で実施された。
		改善策	—

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標		1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標		昨年度につづき、学生を対象としたアンケートを実施し、以下について共有する。 ・SSI 生の学習状況を把握する。 ・SSI 学生の学習成果（成績）を把握する。
	達成指標		大学が実施するアンケートを活用して、SSI 生の学習状況を把握する。学習成果（成績）については、所属学部と連携し、必要に応じて個別に対応する。また各種アンケートの結果は、年度末に開催する SSI 運営委員会において共有する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	大学が実施するアンケート結果により、SSI 生の学習状況を把握できた。そのアンケート内容は運営委員会で報告し、学部から選出されている運営委員と共有している。また成績に関しては、所属学部独自の基準で一般学生と同様に指導いただいている。しかし、SSI として個々の成績に関する詳細を把握できていないため、さらに各学部と連携を深める必要がある。
		改善策	—
No	評価基準		教員・教員組織
5	中期目標		1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標		1. SSI との連携を促進してもらえるよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に対し、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標		1. スポーツ研究センター執行部と連携を図り、引き続き協力を要請する。 2. SSI 執行部を中心に個々の教員に依頼する。 3. 昨年度と同様、オンライン授業に関する相談窓口を SSI 事務局内に設置し、各種情報提供および教員個々の質問や相談に応じる。また得られた情報を執行部内で適宜共有・検討する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	授業運営にあたって、必要な事案が生じた場合、即座にスポーツ研究センターに協力を要請できる体制を構築できた。またスポーツ健康学部の教員にも外部講師として登壇いただくことができた。 オンライン授業に関しての相談は、SSI 事務を窓口として随時受付を行い、対応することができた。またその内容は執行部と共有できている。
		改善策	—
No	評価基準		学生支援
6	中期目標		1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標		1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応・実施にあたって、必要な情報を適宜発信する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		4. 学生がかかえる様々な問題に対応するために、学生相談室と連携をする。	
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 大学キャリアセンターと連携して、SSI 学生に対して情報発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携して、SSI 学生に対して情報発信する。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	年度初めの運営委員会において、学生アンケートの結果を共有し、委員と意見交換を行い必要な対策を講じている。 学生のキャリア教育については、アスリートキャリア論（選択科目）を配置して対応している。加えて大学キャリアセンターに体育会専用の相談員がいるため、必要に応じて紹介し相互に連携を図っている。 また学生相談室について専任教員が担当する授業内で紹介し、SSI 生の相談について対応している。
改善策		－	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	・関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度目標	22 年度以降の履修証明プログラム実施のために、リモート授業の開講の増加を検討する。	
	達成指標	引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	昨年同様に履修証明プログラムに取り組んでいるが、今年度は受講生の参加がなかった。新型コロナの影響が考えられるため、オンライン授業の導入や引き続き魅力ある内容を検討していく。
		改善策	－
【重点目標】 2024 年を目標に、本インスティテュートの抜本的なカリキュラム改訂を行う予定である。発足して以来、初めてのカリキュラム変更となるため、現状の問題点を適切に把握し、カリキュラムの礎となる概要を策定する。 【目標を達成するための施策等】 カリキュラム委員会を軸として、カリキュラム改定委員会（仮称）を立ち上げ、カリキュラム改定に向けたロードマップを作成する。			
【年度目標達成状況総括】 20 年度は全ての授業が新型コロナによりオンラインで実施されたが、本年度においては一部の授業を除いて対面授業で実施することができた。SSI はインスティテュートとして位置付けられており、SSI 生はそれぞれ異なる学部・所属しているため、所属学部との連携は欠くことができない。また卒業単位の 1/3 程度を SSI 科目で修得するため、その内容については、執行部を中心に内部組織（質保証委員会やカリキュラム委員会）を活用（連携）して、進めなければならない。本年度もその体制は確立され機能している。一方で、学習成果に関する件で、成果の把握を大学が実施するアンケートを活用し、その結果により全体的、個別的に確認および把握できているが、より SSI 生の特徴を知るために、今以上に独自質問を充実させることなどを旨とする。また近年、大学の使命として社会貢献・連携が求められている。SSI においても例外ではなく、むしろ積極的に進めることが望ましい。現在 SSI では、大学が実施している履修証明プログラムに参画している。しかし、新型コロナの影響もあってか、本年度は受講者がいなかった。新型コロナが収束したとしても、またいつ再燃するかわからない。そこで SSI としては、より各科目の内容を充実させ、オンライン形式でも受講できるようにするなど、さらに検討を進める必要があると考える。			

【2022 年度目標の達成状況に関する大学評価】

SSI は、質保証の点において委員会を春・秋学期中および年度末にも実施することで、対面授業だけでなく COVID-19 によって導入されたオンライン授業の質保証に関しても検証を行い、年度目標を達成したと言える。

教育内容に関しては、各学部が主催する科目から SSI 専門科目として提出される科目を前年度と同等程度確保するという目標が達成された。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

教員組織の点では、スポーツ研究センターとスポーツ健康学部両部局との連携強化によって、年度目標は達成されている。

「重点目標」に掲げられたカリキュラム改定への準備については、教員への意見聴取やカリキュラム委員会における検討が進んでいる点で一定の評価はできる。ただし、時期尚早との理由から検討結果を運営委員会で報告するには至っていないと記載されている。また、目標達成施策として掲げられたカリキュラム改定にむけたロードマップについても、そして、カリキュラム見直しそのものについても「年度目標達成状況総括」には言及されていない。2024年度に実施予定のカリキュラム改定は、SSIにとって初めてのカリキュラム変更であり、引き続きこれまでの課題を精査のうえ、新カリキュラムの骨子を策定すべく、着実な進展に期待したい。

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	SSI 質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。
	年度目標	シラバスチェックを担う第三者委員会と新カリキュラム編成を担うカリキュラム委員会を適宜開催する。
	達成指標	少なくとも、両委員会を各学期中に一度、年度末に一度開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	1. 新カリキュラムに関係するポリシーを策定する。 2. 各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。
	年度目標	1. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、カリキュラムポリシーを更新する。 2. 新カリキュラムで開講する科目の候補をまとめる。
	達成指標	1. 現行のカリキュラムポリシーを新カリキュラムに合わせて更新する。 2. 新たなカリキュラムポリシーに準じて、新カリキュラムの基幹科目を策定する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	1. SSI 生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI 生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。
	年度目標	1. カリキュラム変更と合わせ、オンデマンド授業開講の可能性について検討する。 2. 同一名称科目の授業計画やオンラインを用いた市ヶ谷・多摩共同開講の可能性について検討する。 3. アクティブラーニングを実践している科目担当者よりノウハウを共有してもらう。
	達成指標	1. オンデマンド授業の長所と短所について精査する。 2. FD ミーティングを開催して情報共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. SSI 生の学習現状について把握する。 2. SSI 生の競技・日常生活においてより実用的な学習内容を検討する。
	年度目標	SSI 生を対象としたアンケートを実施して、SSI 生の学習状況・成果を把握し、一般学生と比較する。
	達成指標	1. 大学が実施しているアンケートを利用し、SSI 生に関する箇所（結果）を抽出して共有する。 2. SSI に参加している各学部から SSI 生の GPA を共有してもらう。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。
	年度目標	1. 新カリキュラムについて運営委員会で議題に挙げ、委員から広く意見を募る。 2. カリキュラム委員会を適宜開催し、新カリキュラムの全容を具体化していく。 3. SSI と連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		4. オンライン授業に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標	1. 各運営委員会で新カリキュラムに関する議題を設定する。 2. カリキュラム委員会を定期（各学期1回）開催する。追加で適宜開催し、新カリキュラムに関する各種情報を提供してもらう。 3. スポーツ研究センター運営委員会に参加して連携を要請する。 4. 数名の教員にヒアリングを行い、オンライン授業に関する情報を得る。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に参加している各学部や体育会各部と連携を深める。 2. SSI 生を対象としたアンケートを充実させ、SSI 生の学習・競技活動の実態を把握する。 3. SSI 生に向けた新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスを充実させる。 4. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. SSI 生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と情報を交換する。 3. アカデミックアドバイザーを設置し、SSI 生の修学を支援する。
	達成指標	1. 運営委員会において、SSI 生を対象としたアンケートの結果を共有する。 2. キャリアセンターと連携し、SSI 生に対して情報を発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
	年度目標	1. オンライン授業あるいは多摩・小金井キャンパスでの開講について検討する。 2. スポーツ関連学部に関心のある高校生や高校に対して出前授業を行う。
	達成指標	1. 引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。 2. 入学センターから情報を得る。
【重点目標】 2024 年度にカリキュラム改訂を実施する予定である。発足以来、初めてのカリキュラム変更となるため、これまでの課題を踏まえ、新カリキュラムの骨子を策定する。 【目標を達成するための施策等】 現行のカリキュラムポリシーを見直し、現状と展望に即したカリキュラムポリシーを策定する。		

【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

2024 年度カリキュラム改定にむけて、これまでの課題を踏まえた新たなカリキュラムポリシーの策定は「重点目標」として適切である。また、今までの教育目標や現行のカリキュラムが抱える課題、オンライン授業の導入による学習環境の大きな変化、学生のニーズなどを十分検討する機会が設けられるよう教育課程・学習成果に関する年度目標が設定されている。そのなかで、オンラインを活用した市ヶ谷・多摩キャンパス協同開講授業やオンデマンド授業についての検討は、SSI 生にとってより充実した学びの機会を提供する可能性としてとくに注目される目標であろう。 一方、社会貢献・社会連携については「SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する」とあるが、卒業生との関係も SSI の魅力的な「資源」と考え、卒業後の追跡調査や卒業生を対象としたアンケートなども中期目標として期待したい。
--

【大学評価総評】

SSI は、2024 年度に実施する抜本的なカリキュラム改革にむけて、カリキュラム委員会を立ち上げ、関連部局と丁寧に関わりながら準備を進めている。2022 年度の「重点目標」は新カリキュラムポリシーの策定である。この作業が、これまでの教育目標やカリキュラム体系の課題、学生の達成度を検証したうえで進められることの重要性は、「2021 年度自己点検・評価報告書」ですでに指摘されているとおりである。これを受けて、学生へ独自のアンケートを実施したことは高く評価できる。2022 年度は、このアンケート結果を踏まえて、現時点での学生のニーズと将来求められることといった、中・長期的展望のバランスを備えた新たなカリキュラムポリシーの具体化がなされるであろう。
--

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

本インスティテュートは、SSI 生に対して修学支援の面でもきめ細かな対応を行っており、今後も独自の修学支援アドバイザー制度を検討しており大いに評価できるが、他方で教職員の負担が過剰になる恐れも否めない。COVID-19 による厳しい行動制限を経て日常生活・学習環境の変化を経験するなか、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の影響もあり、一般的にも「スポーツの力」は再認識された。文武両道を目指し直向きに精進する SSI 生の姿は、一般の学生にとって良い刺激となり、SSI 生にとっても期待と応援を受ける好循環が生じる可能性がある。その意味で SSI 生（学生アスリート）について、もっと学内での認知度や関心を高め、学生同士が自主的かつ組織的に支援する取り組みを関連学部や学生センターなどと連携して考えてもよいだろう。それによって教職員の負担増を抑えつつ、部活外での交流が薄いと指摘された SSI 生と一般学生との交流を促し、互いから学ぶ機会を得る環境作りにも期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。